



キンメダイの捕獲・飼育Ⅱ 親魚捕獲と船上人工授精

栽培漁業研究のために8～9月に、伊豆漁協稲取支所の所属船「稻荷丸」の協力を得て、3回キンメダイを捕獲しました。

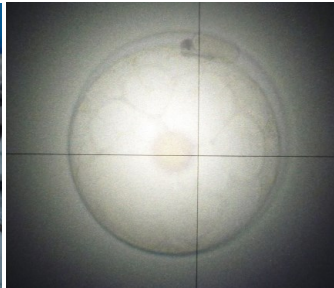
今回は、産卵期の親魚を捕獲し人工授精によってふ化仔魚を得ることを目的としました。第2回調査で成熟魚から船上で人工授精を実施したものの、ふ化仔魚を得ることは出来ませんでした。未成熟魚は当场に輸送し飼育しました。表層水温は24～26℃と高いた



捕獲したキンメダイ→

め、第3回調査では、予め分場でクーラーを用いて冷却した海水を漁槽に積込み、さらに氷を使用することで水温10-11℃を維持し、分場に輸送することが出来ました。9月末現在、2尾が生残り飼育を継続しています。

今後、産卵期の天然親魚を用いた人工授精と、海洋深層水を用いた長期飼育による親魚養成の2つの手法によりキンメダイの採卵技術開発を進めていく予定です。



←キンメダイの卵

稲取キンメ、シンガポールへ

全国漁業協同組合連合会がシンガポールに開設したアンテナショップの和食レストラン WADATSUMI に稲取からキンメダイが送られました。8月19日に1.8kgサイズのキンメダイが送られ、現地シェフから高い評価を受け、出荷要望を受けました。その後の9月14～26日の静岡フェア期間中には同サイズのキンメダイが漁獲されず、ようやく、9月27日に1.3kgサイズ2尾が送られました。今後、新たな販路として期待されます。

←静岡フェアでの試食会 (JF静岡漁連提供)



伊東マリンタウン港内の放流マダイの調査

マダイの資源を増やすために、今年も放流サイズに育てた体長6cm以上のマダイが伊豆半島の各地に放流されました。

放流後の状況を把握するために9月に伊東マリンタウン港で観察を行いました。ここはマリーナとして利用されているため他の港と比べて平穏で、釣りが禁止されています。放流したマダイの滞留状況は良好で

した。釣りの管理ができるなら、港内は放流適地と考えられます。



←観察されたマダイ

- 10月の予定** ・アワビ類の稚貝の生態を明らかにするために、幼生放流実験を行います。
- ・県東部漁業士と県行政との意見交換会が10月16日に東伊豆町で行われます。
 - ・10月20日に小田原で行われる相模湾水産振興シンポジウムで定置網の魚種組成変化について報告します。
 - ・キンメダイの一都三県漁業者代表部会および資源研究に関するシンポジウムが10月27日に東京で開催されます。